

### 福祉功労者が顕彰されました

◎日立市社会福祉協議会会長顕彰  
平成三十年十一月十四日、日立市社会福祉協議会の「ふくしのつどい」が、日立シビックセンター音楽ホールに於いて開催され、多年にわたり地域福祉活動を実践されて、社会福祉の発展に寄与された功労者が顕彰されました。会瀬学区からは、左記の方が顕彰されました。◎社会福祉活動協力援助者（在職五年以上）  
北見 益代氏（おもちゃライブラリー委員）

### 地域と学校の協働活動

会瀬小学校は地域とともにある学校づくりのための学校運営協議会制度（コミュニティスクール）を平成29年度県北で最初のモデル校になり学習支援を行っています。今年で2年目これまで行った活動の紹介をします。  
☆3年生「会瀬のすてきな人を見つけよう」  
・久慈浜漁業協同組合会瀬支所の方には会瀬学区の漁業について知り  
・小平記念館勤務の沼田 祐美さんには日立市の産業の礎である日立製作所の歴史や製品について  
・皆川直司さんには、会瀬小の歴史や昔の学校生活、けやき、戦争の様子について  
☆5年生社会科「水産業のさかんな地域」  
・久慈浜漁業協同組合会瀬支所の方には茨城県や会瀬の漁業について、漁業者の一日の生活について



☆5年生家庭科「ひと針に心をこめて」  
地域の方々の指導で糸と針を使って、手縫いの基礎を身につける。

☆6年生 総合学習「伝え合おう！日本のよさ・日本の心」を昨年引き続き  
①茶道 ②華道 ③和裁（刺し子）④百人一首 ⑤墨絵 ⑥箏 ⑦菓子（ビスコイト）を行いました。  
3学期には、昔遊びその他の授業に学習支援ボランティアの支援活動が行われます。  
学校からコミュニティへ砂遊び集会支援  
地域から学校への支援事業として  
学区防災訓練、三世代敬老の集い  
1月15日（火）浜の焚き上げ祭など

### ふるさと会瀬から

#### 会瀬旧述

会瀬の昔のことが知りたいという子ども達や、大人にとっても貴重な書物が近年、目の見ることにになりました。長い間、行方知れずになっていた「会瀬旧述」が日立市名誉市民であった瀬谷義彦先生の蔵書の中から、平成26年発見されました。「会瀬旧述」の著者は成沢村鹿島神社神官瀬谷義文であり、瀬谷義彦先生の先祖であります。二百年以上前の会瀬村についての伝説や伝承そして地誌などが著わされたものです。内容の概要を今後、連載する予定。なお、原本を解読したのは元郷土博物館館長小松徳年氏ですが、わかりやすく口語訳して紹介します。

#### 会瀬旧述

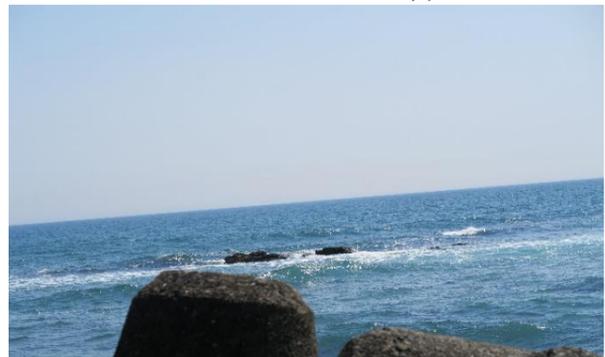
会瀬の浦は、水戸から約28km東北にある磯が多い浦である。彦星（牽牛星）と織女星が7月7日の夜、五色の雲に乗り、この浦の磯に降り立ったという地元の伝説から、浦の磯を七夕磯と会瀬村では云っている。磯の先端にある二つの大石に降り立ったので、この二つの石を夫婦石と云い、どんな潮時でも見る事ができる。夫婦石は岸から約四百m沖にあって、いつでも白波が打ち砕けているのははっきりとわかる。沖合から打ち寄せた波は、夫婦石で二つに分かれ、南側を男波、北側を女波といい磯伝えに岸まで寄せてくる。（瀬）なので会瀬の浦と名付けられた。

#### 附記

・八世紀に編纂された常陸風土記に「助川の駅家あり。昔、遇鹿（あふか）と云った。古老の話では武の天皇がこの地に来たとき、皇后が訪ねてきて遇ったので遇鹿と名付けた」と記されている。逢って喜ぶ意味から逢賀として相賀と変わったが「水府志料」（江戸期）には「会瀬浦、村名初めは相賀村と称す。古来は会瀬と云っていたので会瀬村に改められた」とある。

・磯に囲まれた美しい会瀬浦に生まれた伝承や伝説は長い年月を経ても、色あせぬものであった。七夕磯の先端にある二つの大石は昔と変わらぬ姿を見せている。どんな潮時でも見る事ができるとあるが大きな変容があった。

東日本大震災は海底地盤沈下をもたらしたが、会瀬海岸一帯では約70cm海底が沈降した。その結果、満潮時には二つの大石は波間に隠れ見えなくなってしまう



12月12日（水）講師の方々を迎え報告会が行なわれました。それぞれのグループで実演も含め（箏、茶道、百人一首）ひとりひとりが発表を行いました。

